

議事要旨

(基本情報)

会議名称	第6回立川市学童保育のあり方検討委員会
開催日時	令和8年1月21日(水曜日) 19時00分～21時00分
開催場所	立川市役所 101会議室
次第	1. 開会 2. 学童保育のあり方に関する提言の今後の進め方について 3. 学童保育の目指すべき姿と基本方針案について 4. 学童保育のあり方に関する提言案について 5. その他
配布資料	資料1 学童保育のあり方に関する提言まとめ予定 資料2 立川市の学童保育の目指すべき姿と基本方針 案 資料3 目指すべき姿と基本方針 委員回答 資料4 学童保育のあり方に関する提言 案
出席者	[委員] 小松委員(委員長)、小畑委員(副委員長)、黒葛委員、田尻委員、 鳥澤委員、矢ノ口委員 [事務局] 小川子ども育成課長、今尾学童保育指導支援係長、瀧子ども育成係長、 海野学童保育所係長、保育課保育指導支援係江頭主査
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0人

1. 開会

2. 学童保育のあり方に関する提言の今後の進め方について

【委員長】

学童保育のあり方に関する提言の今後の進め方について、事務局より説明をお願いしたい。

【事務局】

(資料1 説明)

【委員長】

質問や意見はあるか。

【委員】

委員長より市長へ提言書をお渡しする際に、スケジュールを皆さんにお知らせするので、可能であれば、他の委員もご同席いただきたい。

【委員長】

では提言の進め方についてはこのようにしたい。

3. 学童保育の目指すべき姿と基本方針案について

では続いて、次第3学童保育の目指すべき姿と基本方針案について、事務局より資料の説明をお願いしたい。

【事務局】

(資料2, 3 説明)

【委員長】

各委員から、資料3についての補足説明と提示された事務局案について、質問やご意見はあるか。

【委員長】

学童保育所の一つの役割として、「遊び」や「生活体験」という言葉を入れるとわかりやすいのではないかとということと、子どもの主体性を大切にするという点で、もちろん子どもたちの権利が尊重されるということは含まれているが、改めて、「子どもの最善の利益」であるとか、こども基本法で明記されているような文言も加えることで、よりそこが立川市の方針としてはっきりするのではないかと考えた。

基本方針では、居心地よく「充実して」という言葉を入れた。安心して、充実して過ごせる場所ということが大切と考えて加えた。④では、委員のご意見と同じで、単に「見守る」ではない言葉がいいと思ったが、うまく修正していただいた。

【委員】

立川市は発達支援において、途切れ・すき間のない支援を掲げているので、連携というところが、学童として大きな働きがあるのではないかと考えた。

この学童期を「見守る」だけではなくて、やはり「支える」という言葉がいいのではないか。「見守る」となると、現場の職員が見守るのか、市が学童を見守るのかがわかりにくく、①から③は現場がやることで、④以降は市がやることになるのかと考えたが、このように文言が変わって、「現場を支える」、「持続可能な事業運営」など、役割分担というか、現場の職員がやるだけではなく、市として学童をどう支えていくか、となっており、いいかたちになっているのではないかと思う。

【委員】

よくまとまっているという印象で、一部言葉を置き換えた方がいいと感じた。それが反映されて修正されているので、特に意見はない。

【委員】

今まで検討してきたことや委員の皆さんの学童に望む姿などが盛り込まれている。特に、「主体性を尊重」というところが(よい)。学校では人数も多く、お友達もいて、みんながみんな自分の好きなように動けないことも多い。家庭とは違う第三の居場所として過ごす中で、自分が尊重してもらえたという体験が学童ならではののではないかと思う。また、「社会状況の変化に対応した」という点についても、保護者からの意見は変わっていく。今、世の中が変わっていく中で、立川はこんなふうにやっています、というところとして、とてもいいと感じた。

【委員】

委員も書いていただいているが、「のびのびと過ごす」が前段と後半と二つ同じようなフレーズになっているので、少しトーンを変えた方がいいという印象がある。

【委員】

後半の「のびのびと」は削除してもよいのではないか。

【委員長】

では、二段落目の下から二行目の最後は「体験を大切にしながら、楽しく安心して過ごすことができる居場所の提供を目指します」と修正する。

【委員】

とても良いと思う。これを時々読み返して、学童の先生たちが迷ったときに振り返ることができる、「そうかここが大事だったな」と思うことができる。また、「社会状況の変化」は、カスタマーハラスメントも増えているが、その点にも対応ができるので、ここもとてもよいと思う。

【事務局】

「生活体験を経験し」の部分で言葉がかぶっている印象があるがいかがか。

【委員長】

「遊びや生活体験をし」、でもいいと思うので、「経験」を削除する。

では、目指すべき姿と基本方針については、一旦ここで区切ることにしたい。

4. 学童保育のあり方に関する提言案について

【委員長】

事務局より「Ⅱの立川市の学童保育の目指すべき姿を基本方針」まで説明お願いしたい。

【事務局】

(資料4 目次、Ⅰ、Ⅱ説明)

【委員長】

質問やご意見はあるか。

不足している資料や、説明すべきことやタイトルについてご意見はあるか。

「多様な子どもたち」という言葉は、先ほどの指針の中にも出てきてはいるが、これまでの議論の中で、この言葉は、発達上で支援が必要な子どもや医療的なケアが必要な子どものことが中心であったと思う。国の方針や、あり方を考えていく上で、多様な子どもの中に、多国籍の子どもや、性的なマイノリティと呼ばれるような子どもも含めて捉える必要があると思う。

子どもが、性的な違和感をいつ頃自覚したか、という調査によると、幼児期の後半から小学校高学年ぐらいまでの間にそうした違和感を感じていたという当事者の方の調査もある。実際どれだけ、市の方で把握しているかはわからないが、そういう子どもたちのことも含めて考えていくことは大切なことだと思っている。

資料編、議論の中では明記はされていないが、そういうところも考えられるといいと思う。

他の点でも加えた方がいいことや、気になることはないか。

【委員】

自分の感じ方なので皆さんにもご意見いただきたい。「Ⅱ学童保育の目指すべき姿と基本方針」が2番目に入っているが、ここが一番打ち出すべきことかと思う。

「現状」、「基本方針」、「今後の課題」という順となっているが、「基本方針」、「現状」、「今後の課題」というかたちでもいいのではないか。真ん中に入っていると隠れてしまう。これが一番立川市として大事にしたいところです、というところを前に出した方がよいと思うがいかがか。

【事務局】

事務局でも迷ったところである。一旦はこの構成にしたが、皆さんにご意見いただきたい。

【委員】

委員会では議論の内容をわかっているが、初めて見ると、立川市として何を大切にしている部分なのか(わかりづらい)。現状から見ていくと、クーラーなど設備の課題など

が先に入っていて、マイナスな意見の方が先にある順番になっているという印象である。

【委員長】

章立ての変更に関するご意見である。入れ替える場合は、「はじめに」の後に基本方針を入れるということになる。

委員会の進め方としては、現状把握をして、その後方針を決めるという順で議論をしてきたが、(提言では)「立川市はこういう方針で運営していきます」を先に述べて、「その背景としてはこういうことがある」、「それを課題として、こう取り組んでいく」という流れでもよいかもしれない。あまり一般的ではないか。

【委員】

どういう方が読むかにもよるかもしれない。

【委員】

行政はこの構成が割と一般的である。

現状があり、でも本当は目指したいのはここで、ギャップが課題だという流れで、計画策定などでは、この並びが多い。

【委員】

一般企業は、逆の方が多。結論の目指すところからまず述べて、それに対しての現状(の順が多い)。

【委員】

せっかく提言を皆さんからいただくので、まずは夢を語ってもいいと思う。

【委員】

(基本方針の記載は)周りを豪華に額のようなイメージにして、目が行くようにしては。そういう始まりがあって、あとで課題の説明がある。最後に結論という流れもあるとは思う。インパクトとしては最初に見た方がよいと思う。そして、どうしてこの内容になったのかが後ろに説明が書いてあるのはよい。

飛ばして読む人が多いので、最初にあった方がいいかもしれない。

【委員】

概要版で、A3の1枚で見せるとしたら、何から始めるか。

【事務局】

基本方針が一番上にあって、その下にぶら下がることをイメージしていた。

【委員長】

では、提言もその流れで入れ替えることとしたい。

【委員】

今の問題の補足で、私の個人的な背景だが、私の娘が1年生で、入学する前の年に多摩エリアの近隣の市から引っ越してきた。立川の環境で育てたいと思っていた。周囲の人からも、家を買うときに、立川がいいという話はよく聞く。立川は多摩の中で花形だと思う。いろんな土地の中で立川がいいなと思って住む人が多いと思うので、「学童はこんなふうに運営して行きたいと思います」と打ち出すことは、(立川市に住むことの)入口としてすごく強みだと思う。預ける側の保護者としては、最初に(基本方針が)あった方が、「やっぱり立川はいいな」と感じると思う。

【委員長】

立川ブランドの売り出し方にもつながるということかと思う。では、章立ては変更する方向でお願いしたい。

その他、内容的にはいかがか。

「はじめに」の文章が少し硬いといったことはないか。

あまり強調したくない部分かもしれないが、これまで立川市は学童保育に関して指針等がなかったけれど、良い学童保育にしていきたいということで、今回新たに検討会を作ったんだ、ということも加えてもよいと思う。作るならば本当にいいものにした、という思いがあることを記載できるとよい。

先ほどの基本方針の中で、子どもの最善の利益や子どもの権利のことを入れてはどうかということで追加したが、「はじめに」でも4段落に、こども基本法の施行について書かれてはいるが、そういうところをしっかりと反映した運営にしていきたいということも、「はじめに」の中にもう少し書き加えるといいと思う。私も文案を考えていきたい。

「はじめに」について、他にご意見はあるか。

【委員】

1ページにまとめるには盛りだくさんな感じはするが、しっかり書いていただいていると思う。

【委員長】

では、「はじめに」はこれで進めたい。

次に、「I学童を取り巻く現状」についてはいかがか。

ここはこれまでの議論のなかで見てきた資料になる。アンケート結果の抜粋したところも、これまでの議論の中で話題になった部分を上げているという理解でよいか。

【事務局】

そうである。

【委員長】

10, 11 ページのところになるが、先ほど話した外国籍のお子さんの受け入れ状況など把握されていないか。

【事務局】

外国籍というよりは外国にルーツを持つお子さんになるかと思う。国籍までは把握はできない。

【委員】

例えば、まだ日本語の習熟が十分でないとか、実際の保育の中で課題が出てくると、問題が顕在化して把握できたりするかもしれないが、通常の申請の範囲内ではそこ（国籍）を聞いてない。

【委員】

お子さんは割と早くに日本語が上手になったりするが、保護者の方には（日本語では）全然伝わらなかつたりということはある。食事などの課題が少しあるのかもしれないが、お子さんは馴染んでしまう。

【委員】

私の子どもの同級生でも、両親が外国籍の子で日本語が全くしゃべれない子がいた。英語の補助の先生が入っていたが、2学期からその先生もいらっしゃらなくなった。担任の先生に聞くと、子どもたちは意外とやり取りはできていて、とても楽しそうに遊んでいる。その子も簡単な日本語は覚えているが、国語が少し大変だと言っていた。

そういった課題は、以前も検討内容にあったように、保育所や学校、学童での情報共有ができればスムーズになると思う。

【委員】

保育園でも増えている。地域によってはとても増えている、立川もいろいろな職業が集まってくるところで、比率として高くなりやすい。学校にも行っているので、学校で過ごせているということは、学童でも安心して過ごせていると思うが、人数的には増

えていて、配慮が必要になったりというところはある。

【事務局】

そういった内容の加筆が必要か。

【委員長】

「現状」の部分はこのままでよいと思う。

【委員】

アンケートの抜粋を載せているが、学童のよいところについてのアンケートもあるか。よくないところだけでなく、よいところも書いて欲しい。よくないところがたくさん載せられていて、確かにここも大切だが、学童で子どもたちがどのぐらい楽しんでいるかとか、学童が子どもたちにとってどれくらい支えになってるなどの部分も出ていると印象としてよいと思う。

【委員長】

アンケートは両方質問しているか。

【事務局】

両方聞いている。また、満足度も聞いている。

【委員長】

より満足度が高まるようにという部分も確かに必要である。

【委員】

今後の検討に対しても、ここは大事にしていこうとか、ここを伸ばしていこうということも大事になるので、打ち出した方がよいと思う。

【委員長】

9ページの前に入れるか。

【委員】

それがよい。ぜひ、「トイレが古い」などの意見の前に入れられるとよい。

【委員】

飛ばして読む方もいらっしゃると思うと話があったが、アンケートでこういう意見が出ていて、それに対してこういう検討を重ねていると書いてある。例えば、この意見に対して、改善案を何ページに載っていると示してはどうか。気になる部分だけでも、流し読みでも伝わるとよい。

【委員長】

17ページ以降のページのここを参照と記載するということか。

【委員】

今、点でたくさん細かく書いてあるので、線で繋ぐ。

【委員長】

17ページ以降のところは、項目ごとに課題としてまとめて書いているので、そのページがわかるようにするだけでも違う。ここ（課題ページを明記すること）は検討していくということではどうか。

【委員】

10ページの障害児保育で、対象児童が「中・軽度で集団生活・保育に適用できる児童」と書かれている。今までの経緯では、ここの検討をしていくとなっていたが、この部分はこのままの記載になるか。

【事務局】

ここでは現状を記載するので、このままとしている。

【委員長】

東京都の認証学童クラブの基準にしていくことをあげているが、認証の基準と、立川

市の現状が数値的に説明されているところはあるか。

【事務局】

認証学童クラブの基準についての記載がないので、現状の説明の中に入れられるように考えていく。

【委員長】

現状の説明の中ではなく、提言の中でもよいかもしれない。

（認証基準とすることは）より子どもにとっては良い基準になる。

施設更新の予定は記載があったが、ICTの活用も、具体的にいつからか決まっているか。来年度ではないか。

【事務局】

まだ新年度予算が認められていないため、正式には決定していない。

【委員長】

施設更新の方はもう予算化されているのか。

【事務局】

予算はまだだが、施設整備計画に予定が記載されている。西砂学童保育所と曙学童保育所については、すでに着工しており確実に進んでいる。

【委員長】

提言をお渡しする時に、市長にICT化については強調していきたい。

【委員】

2月の半ばには、市長が新年度予算の記者会見をするので、確認ができる。

【委員長】

他に意見はないか。

では、17ページ以降について説明をお願いしたい。

【事務局】

（資料4 III（1）、（2）説明）

【委員長】

（1）保育の質の向上と、（2）多様な児童の受入れに関する部分、何かお気づきの点はあるか。全体の書き方や、書き込んだ方がいいところ、あるいは、ここまで書かなくていいなど。

【委員】

17ページの「◆学童保育のあり方の見直しと運営指針の策定の」の一番上で、「学童保育は留守家庭対策として保護者どうしの預かり合いに近いたちからスタートし、現在までこれを引き継ぎながら」の「これ」について、今も保護者の預かり合いをしてるわけではない。おそらくそのころの、家庭っぽいところ、いわゆる専門性とかガイドラインなどでなく、家庭のゆるさのようなマインドが今もどこかにあるというニュアンスだと思うが、「これを引き継ぎ」だけではわかりにくい。

その当時の保育観のような、ある意味昭和的な、遊びの内容だったり、（指導員と子ども）距離感といったものかもしれない。

【事務局】

書き方を検討させていただきたい。

【委員】

18ページ（2）課題の分析の2番目の「保育園で1対1の加配対応していた児童」が、「集団の中の一人としての見守りだけになる」とあるが、立川市の学童では制度として加配はないのか。

【事務局】

加配はつけるが、その子に対しての配置ではない。一対一の見守りでなく、必要な場合に加配して見守りの目を増やすというかたちを取っている。

【委員】

その現状をもう少し明確に説明できるとよい。加配制度はあるが、集団の中での見守りになっているという現状を説明した方がよい。

また、課題への対応方針の1番目「◆特性のある児童の集団保育」とあるが、集団保育は全体の保育に係る部分になるので、「特性のある児童を含めた一斉活動・個別対応の考え方」という方がよいと思う。

【委員長】

(1) の「◆子どもの意見を聞き主体性を尊重する」について、職員の研修など関わることなので、どこに入れるべきか迷うところだが、ここでは、運営の仕方と関わり方の2つが書かれているが、その前提となる子どもの権利などに関して、職員に対する研修を行うといった内容がどこかに入っているとよいと思う。(1)に追加するか、(7)人材確保と職員の処遇にいれるべきか。

【事務局】

(7)は人材育成全体に係る内容なので、子どもの権利の内容であれば(1)がいかかもしれない。

【委員長】

施設の垣根を越えて、遊びの共有などをしていく、というところに、子どもをどう見ていくのかということも加えられるとよい。

【委員】

虐待の防止にもなる。

【委員長】

そういう子どもの権利を尊重するための研修もしっかり行うという内容を入れたい。あともう一点、19ページの上から4番目「家庭に課題がある児童」という表現が気になった。内容としては、放置される子どもなどのことで議論されたと記憶しているが、虐待という言葉を使うのがいいかどうか。

【委員】

「配慮を必要とする家庭」など違う言葉に置き換えるか。

【事務局】

あまり子どもの面倒を見ない、ネグレクト傾向などの家庭について触れた課題だった。家庭に課題があると置き換えさせていただいた。「ネグレクトなど家庭に課題がある」と事例的に出して言い換えるか、「配慮が必要な」とするか。

【委員】

「配慮が必要な児童」では、子どもに配慮が必要なのか、それとも家庭に配慮が必要なのかがわからない。「配慮が必要な家庭」であれば、そこまで嫌なイメージはもたれにくいのではないか。

【委員長】

他に意見はないか。では次の説明をお願いしたい。

【事務局】

(資料4 III (3) (4) 説明)

宿題のテーマについては、多くのご意見をいただいたので、このような書き方にした。宿題のトピックだが、ご家庭等に丁寧に説明してことや、時間が区切れないとか、学習場所のゾーニングなどは、宿題のことだけでなく学童保育の様々な課題に対して、対応できるとよい内容であるので、具体的な議論を載せている。

【委員長】

意見等あるか。

【委員】

宿題に関しては、現状、発達の課題を抱えている子が宿題をすることに大変さがある場合が多い。その子が学校で勉強してきて、さらに学童で勉強するということができなくて、そのまま家に帰ると、(保護者から、宿題を学童で) やらせてほしいという要望があげられることになっていく。その子たちに、宿題をやる場所はあるけど、宿題をやるだけではなくて、静かな場所にするとか、宿題をやらせるだけが目的ではないというところが大事なところだと思う。宿題をやらされて苦戦して、それでカッとなって(不適切な行動につながる)ということが現状としてはある。疲れて帰ってきてからの宿題がっらい子たちは、学習に課題があったり、発達に課題があったりして苦しさを抱えている。

【委員】

そういったことが保護者にうまく伝わらない。「まだやってなかったの」と言われながら帰るときがある。

【委員】

今も宿題は保護者の方が丸つけたり、確認したりしているのか。

【委員】

そうである。子どもがやってきた宿題を親が見るとなると、一旦(学童で) やってあると、確認する進めやすさはある。子ども自身が言っていたのは、学童で宿題をやって帰ると、「終わって偉いじゃん」と言われるのがうれしいから頑張ると言っていた。今、お話があった、どうしてもできない子の状況について、20 ページの一番下のところにある、「したくない子」がいるというのを、「どうしてもできない」、「宿題には向かえない」という言い方にしたら、加配の子のこともそうだし、眠すぎて無理という子も含まれるので、「できない」の方がよい。

【委員】

できない理由があることがわかる。

【委員長】

この「したくない」を「宿題に向かえない」に変えるのはいい表現だと思う。

【事務局】

学校の施設の部分など、行数が多い箇所は、皆さんが熱く意見を言っていた内容と解釈していただきたい。

東京都認証学童クラブの基準のことは(4)に記載があるので、ここをブックにして、認証学童クラブ基準と立川市の現状との比較を載せることもできると思う。

【委員長】

他に意見はないか。

では、(5) (6) (7) の説明をお願いしたい。

【事務局】

(資料4 III (5) (6) (7) 説明)

【委員長】

意見等はあるか。

【委員】

23 ページの間食について、このテーマはアンケートでも意見が多くあり、意見が両極端になりやすい。現状に対して、「このままでいい」という意見と、「もっとこう変えて」というような意見が出やすいので、ここも宿題のテーマのように、具体的な議論を載

せるとより理解が得やすいのではないかと思う。例えば「おにぎりにするとしたら衛生上こういう問題がある」など、わかりやすいので、載せてはどうか。

【委員】

無添加のものばかりでもつまらないというお話も出ていた。

【委員長】

このテーマもトピック化することを検討いただきたい。

【委員】

24 ページの課題の方針のところ、とてもいい案がたくさんあるが、どのぐらい実現できるのか、期待している。

会議の中でかなり多くの意見が出たということが、この記載でわかると思う。

【委員】

市が開催する研修で、民間委託や指定管理事業者の参加率はどうか。

【事務局】

各施設 1 人以上出席するようお願いをしているので、参加率は悪くないが、民間の方は、事業者で実施している研修と内容が重複してしまっている場合もあるのかもしれない。民間事業者は、動画などの研修が充実しているが、直営はそれができていない。

【委員長】

前回の報告の中で、(直営と民間事業者が) 合同で研修をする機会を、増やして欲しいという意見が出ていたという報告だったかと思う。

【委員】

先日、保育園の研修の実情の話聞いたが、法人立の園の方が研修体制が充実していて、オンデマンドのものを空き時間などの合間に受けられる環境になっていたり、例えば何年目の(保育士は)研修はこういうものを受けていくなど、その法人の中でしっかりと育てるプログラムがあったりする。そうすると公立の研修に呼びかけをしても、参加率が非常に落ちてきているという実態を聞いた。学童保育所も、実は追いついていないのは、直営の方なのではないかと課題として感じている。

【委員】

(保育園では) キャリアアップの研修も取らないといけないこともあり、現状では、受けたいと思う研修を受けられていない状況になっている。というのも、今年中までに取らなければいけないということがあるので、それに出ると、一つの研修で3日間などかかってしまう。そうすると、研修には行っているし、たくさん受けているように見えても、どの程度身に着けてるかは微妙なところもある。

そういう意味では、学童はまだ受けなければいけないキャリアアップ研修はないので、午前中の時間であれば意外と参加できる可能性があるのでは、やっていただくと私達もうれしいと思う。

【委員】

当法人でも、キャリアアップなど研修をやっている。キャリアアップも現地集合型と Zoom 型でやっていて、オンデマンドはやっていない。アンケートを取ると意見は様々である。対面でやりたいという人もいれば、保育時間のことや、休み使わなければいけない人もいるので、オンラインでできるとよいという意見がある。当初オンラインは対面よりも良くないというイメージもあったが、実際やってみると、そこで質問ができたり、グループワークも対面と同じように、メインの部屋から、各部屋に分かれて3, 4人でワークをやって、メインの部屋に戻ってくるというかたちでやっている。体験してみるとそれが好評で、受けやすいと思う。

キャリアアップもその他の研修やワークも、やり方としては活用できると思う。仕事

をしている人たちを集めて研修を行うというところで、どうかたちが一番皆さんが学んでいけるのか。

【委員】

「今こういう子のことで困ってるんです」というようなことに回答がもらえる（ような研修ができる）。現地に集まってもいいが、個別にできるので、いい研修だと思う。

【委員】

オンデマンドだとそれができないが、Zoom 研修だとチャットを使って手を挙げて質問したり、いろんなやり方ができる。

【委員長】

研修の方法を工夫するというのも、どこかに入れられるとよい。
他にはいかがか。

【委員】

(2)に戻るが、18 ページの課題の対応の「現場の指導員に任せるのではなく、全体で検討していく」とあるが、「全体」とは学童全体なのか、市全体なのか曖昧だと思った。市全体でというワードが出てきているので、ここは明確にするといいと思う。

19 ページでも「◆障害児巡回相談」の3つ目で、「全体で統一して」も学童全体か市全体かわかるとよい。

【委員長】

最初(18 ページ)の方は、学童内全体ととれる。19 ページの巡回相談のところは、市全体ではないか。

【委員】

これによって誰が検討するのかが変わってくると思う。

【委員長】

そこは議論の内容を確認したり、あるいは、どちらかに決めて提案していただきたい。では、次の説明をお願いしたい。

【事務局】

(資料4 IV説明)

【委員】

⑤の1番目について、「運営管理の市と現場の役割分担をすることで、現場職員の負担軽減を図る」については、前提として「今ほぼ現場丸投げになっている状況があるので、市もそこに、サポートをしていくこと」があれば、現場の負担軽減になるが、実態と、この前提になっていることがわからないままここだけを見ると、「もしかしたら、現場も何かやらされるかもしれない」となってしまう、現場の負担軽減とは言い切れないと読んでしまう人もいるかも知れない。書き方もそうだが、前提のところがわかるようにした方がよい。

【事務局】

省略していることが多いので、書き方を全体的に見直していく。

【委員長】

これは、24 ページの「◆業務の負担軽減」に大きく関わると思うが、ここで「市がまとめて対応すること」としてはどんなことが想定できるか。

【事務局】

例えば、現状ではおやつを各学童で買っているのを全体で一括購入や、保育の合間各学童でやっている事務をまとめることも考えられる。今年度は、学童保育の申請業務を昨年度まで各学童で受け付けていたが、申請を電子化したため、現場で受け付けることがなくなり、保育に集中できるといったことができた。そうしたことが少しずつ

できればいいと考えている。

【委員長】

他にはあるか。

【事務局】

これから、提言の概要版を作成していく。A3の1枚程度で、提言書Ⅳの部分のイメージで作っていく。概要版もメールで皆様にお送りしてご意見をお伺いすることを予定している。

【委員長】

全体の読みやすさとか、デザイン的なことでも、意見はないか。Ⅲのなかの（基本方針との関連を示すマークの）「持続可能な事業運営」などの見せ方。これは、どこかに説明がないとわかりにくい。

【事務局】

凡例を載せるようにする。

【委員長】

写真がいくつか入る可能性があるということか。学童の現場の写真か。

【事務局】

主に現場の写真を想定している。

【委員】

細かい点だが、（項目を示すマークが）「○」になっているが、文字のように見えてしまうので、これ以前のページと同様「・」の方が読みやすい。

【事務局】

（資料4 V説明）

【委員】

「学校の余裕教室」という言い方は学校に確認した方がいい。

【委員】

午後、放課後は余裕教室ではあると思う。

【委員長】

施設一覧は、文字のポイントをできれば上げていただきたい。

【委員】

縦にした方がよいかもしれない。

【委員】

施設一覧のNoなど、右寄せを調整するともう少し見やすくなるのではないか。

【委員長】

他に意見等はないか。今後、修正版が送られるので、そこでまたお気づきのことがあればご意見をいただきたい。

5. その他

【委員長】

では第6回の委員会はここで終了となり、この委員会自体もここで終了となる。最後に皆様から感想等いただきたい。

【委員】

長かったようで短かった。1回1回の会議で、いろんな意見が出るので、とても面白くて、参加できてよかったと思う。より良い学童がこれからできることを楽しみに、私も頑張りたい。ありがとうございました。

【委員】

私自身は子どもを学童に預けたことはなかったが、学童でお仕事されている方や、実際に預けられてる保護者の方の意見などを聞かせていただき、大変勉強になった。保育所は子どもを預けたことがあったので、市の方が関わってる部分はわかっていたが、学童の方は市があまり関わっていないのかなという印象を受けた。これからもっと市の方が介入して、より良いものとなるといいと思う。ありがとうございました。

【委員】

私自身が幼少期に学童に入っていなかったのですが、どんな感じなんだろうと思いながら子どもを預けつつ、自分が委員として参加していく中で、理解が深まっていったと感じてる。

いろんな意見を出してしまって、議事録が大変だったろうなと思いながらいつも見ていた。

元々、立川に住みたいと思っていたので、同じように思っている人たちに向けて、もっとこの良さが伝わったらいいなと思っている。内容もちろん良くなっていくだろうし、うまくそれが外に出ていってくれたらいいなと思う。意見をまとめていただきありがとうございました。

【委員】

立川は、このように細やかにいろんなことを検討して改善していこうというところがすごく素敵だと思う。細やかにアンケートを取られたり、声を集めてくださったので、私達もそれを聞いて何かお役に立てるといいなと思いながら毎回参加させていただいた。

今、たくさん課題が見つかると思う。それを良きものに変化していくと思うが、やはり変化させるのは、ちょっと難しい。今あることを、変えるとか、新しいことを始めるというのは、子ども以上に大人の思考を変えるのは難しい。例年通りやってきたことを変えていくというときに、必要なのは、何が悪いのかというところを考えるよりも、「どうしたいのか」とか、「何が大切なのか」とか、そのビジョンをみんなで描くというところが、変えていく動機になると思う。そういったことを、毎回やってくださっていると思っていた。

これから学童が変化してほしいところがたくさんあるが、そのときに、現場の職員が「こうありたいよね」とか、「ここは大切だよ」というものを持っているかたちで導いていただくと、変えたいかなとか、今あるものを変えたいかなというところに行くと思う。

大きな目標はあるが、現場はやはりスモールステップがいいと思う。例えば「一斉活動を減らしていく」ということよりも、「おやつの前に全員で待つんじゃなくて、班ごとに食べましょう」とか、そういうスモールステップの絵を描けないと、「一斉活動を減らすって何」となると思う。だから、いつ、どういうふうにするか、というところが大切で、現場に落とすときには、そうしていただくと現場の先生も「それやってみよう」となると思う。

なので目標は大きくあるが、現実に可能なこと、現場でできることとか、必ず変化があることからやっていくとよい。ずっと同じ課題が続いてしまうということは、課題が大きいのだと思うので、そこをどう現場でやっていけるのか、というところに立川市として動いていただくと、さらに良いものになると思っている。

子どもたちのために変化を一緒に考えていきたいという皆さんと、同じ思いで一緒にさせていただいてとても感謝している。明日から、子どもたちの育ちを大切に支える支援をしていきたいなと感じている。この場をお借りして感謝したい。

【委員】

まずはこの審議会のために、お時間お繰り合わせいただき、毎回いろんなご意見いただけたことを本当にありがたく思っている。

立川市の審議会の中で特徴的なのが、市民のご応募があまり芳しくないものも多く、また、男性率が高いという傾向があるが、なんと今回は市民の方から大変多くのご応募をいただいた。そして、ご覧のように、むしろ男性率が低い、非常に希少な場でもあり、そういったユニークな追い風をいただきながら、提言をやっとここまでお力添えいただくことができた。

立川市の役割としては、それでこれからどうするのか、というところで、今回ご参加いただいた皆さんに、しっかりとご報告ができるような実践に繋げていきたい。今、委員からも言っていたように、伸びしろがたくさんある立川市の学童なので、一つ一つクリアしながら、よりよい保育に、職員たちも働きやすい職場だというふうを選んでもらえるような実践を積み重ねていきたい。本当に今回はありがとうございました。

【委員長】

拙い司会だったが、本当に毎回毎回いろんな率直なご意見いただけて、よかったなと思っている。話しやすい雰囲気を作り出そうとしていたが、不十分なところもあったかと思う。本当にたくさんの提言の内容が充実したので、よかったと思っている。ご協力に感謝したい。

先ほど予定にあったように、この後、提言書が完成したら市に提出するが、そこで終わりではなく、委員もおっしゃったように、これからどんなふうに現場が変わっていくかというところに繋がっていくし、この先にさらに何か作っていくといったこともあるかもしれない。

実際に学童を利用されている方や、巡回指導されていたりということで、現場でもまたどうなっているかということに意見を出したりすることも大事であろうし、私たちもできるところで後押しをしたり、協力をしたりしながら、立川の学童保育が充実したものになるように、関わっていただけたらと思っているので、引き続きよろしくお願ひしたい。本当にありがとうございました。

では、第6回学童保育のあり方検討委員会を終了する。委員の皆様ありがとうございました。